

## EICMA（ミラノ二輪車展）及び市内自転車店調査報告

### 1. EICMA（ミラノ二輪車展）

昨年9月に開催された自転車単独の「EICMA Bici」が今年は取り止めとなり、再び自転車とオートバイの合同の二輪車展として第68回ミラノ展は11月に開催された。

#### 【EICMA 2010】

主催： EICMA (Esposizione Internazionale del Ciclo e Motociclo)

会場： FIERA MIRANO（ミラノ国際見本市会場）

会期： 2010年11月2日(火)～7日(日)

2、3日；ビジネス、4～7日；一般公開

開催時間： 10:00～18:30（5日は22:00終了）

使用ホール： ホール2, 4, 6, 10, 14, 18及び屋外会場

入場者数： 500,000人(昨年450,000人)

出展者数： 610社 1,056ブランド ※出展ガイドより集計



Italwin ブース

#### ①「展示会概要

2008年11月開催時の同二輪車展では、自転車関連企業の出展者だけが集まる展示ホールが1つあり、それに加えて6日間レースとMTB競技コースが別ホールに準備されていた。しかし今回、自転車関連企業はオートバイ出展社が多数を占める各ホールに分散していた。自転車関連出展社数は、タイヤや付属品等、オートバイ用品と両方展示していた出展社を含めても30社余りであり、純然たる自転車関連の出展社はその半分程度であった。今回はイタリアを代表する完成車ブランド、部品、付属品ブランドは殆ど見られず、実質的に二輪車展ではなくオートバイ展であった。展示会全体の来場者は、昨年より1割増の50万人に達し盛況であったといえる。しかし、自転車展として見れば全く物足りない内容であったと言わざるを得ない。



シマノ



Montante

主要な自転車関連の出展者として、シマノは現地代理店が小間を構えたが、詳細な商品展示は行わず、シマノ製品を装着したイタリアの有名ブランドのロードレーサーやMTBの完成車を展示した。周りはすべてオートバイ関連企業に囲まれており、今回は完成車出展が極端に少ないため、スポーツ自転車展示によるブランドのイメージアップを狙った出展形態は、多くの一般消費者が詰めかける同展では効果的であった。その他の出展者は、DUCATIブランドの自転車と自社の電動アシスト自転車を出展した Italwin、シティ車を中心にシンプルなシングルギヤ車を数多く揃えた Montante 等、少数にとどまった。

また、ホール2には「THE GREEN PLANET」という電動車両コーナーが設けられ、多くの電動スクーター、電動自転車及び電動アシスト自転車も見られたが、各小間は総じて小規模であり、扱う商品もドイツ、オランダで見られるような有力ブランドの出展は見られず、全般的にそれらの商品よりも安価なものが中心であった。



THE GREEN PLANET コーナー

## ②巻き返しをはかるミラノ展

昨年ミラノ展は9月の自転車単独開催に戻り、パドヴァで開催される自転車展に真っ向勝負を挑んだ。イタリア政府の自転車購入奨励金という追い風もあり、昨年の単独開催は一定の成功を収めたかに見られたが、本年6月になって9月の自転車展は開催中止となった。結果、ピアンキ、コルナゴ、デ・ローザなどは10月にオランダ・ユトレヒトで開催されたスポ

ーツ自転車展 Bike Motion Benelux に出展し今回は姿が見られなかった。

一方、9月に開催されたパドヴァ展は、主催者によると昨年より出展ブランド数は4割増の350、出展面積も拡大し、来場者数は前年比四割増しの35,000人と確実に成長を遂げており、2010年は実質的にイタリアで一番の自転車展であったともいわれる。しかしながら、EICMA主催者であるイタリア二輪車工業会(ancma)は、今回のEICMAに自転車関連企業の出展が少なかったことを真摯に受け止め、2011年には新たな自転車展示会を計画中である。

来年、イタリア自転車企業の多くがどちらの展示会を選ぶか大変注目され、両者の競合状態はしばらく続くものとみられる。



自転車関連企業の小間の多くは小規模であった

## 2. ミラノ市内自転車小売店調査

調査実施日：平成22年11月6日(土)

調査地域：ミラノ市内

### 調査店舗①

最初に仏系スポーツ用品チェーン店舗を訪問した。同チェーンはイタリア市場にも積極的に展開しており、自転車は全てオリジナルブランドである。MTBは15台、価格帯は200~400ユーロ(以下€と表記; 22,600~45,200円)が中心であるが、€99(11,187円)の特価品から€600(67,800円)の高額車まで揃う。トレッキング車は価格帯€200~300(22,600~33,900円)で15台、シティ車は価格帯€200~400(22,600~45,200円)で15台、子供車€200(22,600円)前後で10台、他は折りたたみ車3台、BMX2台が展示されていた。部品、付属品の扱量は比較的少ない。

### 調査店舗②

次に中規模の自転車小売専門店を訪ねた。MTBはKTMを中心に10台、価格帯は€500~700(56,600~79,100円)で価格帯€300~400(33,900~45,200円)のシングルギヤのトラックレーサーやシティ車も5台程展示されていた。ロードレーサーはビアンキ5台とオリジナルブランド5台が陳列されていた。店内は天井に自転車が50台程吊るされ、実績の長さを感じさせた。訪問時は土曜日の午前中であったが、修理依頼などの来客が絶え間なかった。



調査店舗①



調査店舗②

### 調査店舗③

最後に中央駅から地下鉄で数駅離れた住宅地にある店舗を訪問した。同店はイタリア完成車メーカーの自転車を専門に展示していた。MTB、ロードレーサー等の最新のスポーツ車は価格帯€500~1,000 (56,500~113,000 円) で計 10 台程、シングルスポート車やシティ車は€500 (56,500 円) 前後であった。店内は少量の自転車をゆったりと展示していた。

### その他

その他、訪問時には休憩または休業中で店内を見ることができなかった店舗もあった。詳細を確認できなかったのは残念であったが、外から覗いただけでも、クロモリパイプのフレームが多数つり下けられていた店、オリジナルのシティ車を多く揃える店など、ミラノ市内には個性的な店が多数存在する。



調査店舗③



オリジナル車を飾る店舗

以上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

